

新年明けましておめでとうございます。

職員の皆さんにおかれましては、平成 27 年という新しい年を家族揃ってご健勝にてお迎えのことと、心からお慶びを申し上げます。

また、昨年は 1 年間、住民の皆様方の福祉の増進、そして三芳町の発展のために、それぞれのお立場で職務に精励していただきましたことに対しまして、心から厚く御礼を申し上げます。

今日から駅頭で会報の配布をしまいいりました。昨年の 10 大ニュースあるいは 20 大ニュースということでご報告をさせていただきましたが、あらためて去年 1 年間の様々な事業を振り返ってみると、本当に職員の皆さんには懸命に努力していただき、大きな成果を残していただきました。心から感謝いたします。

そして今、総務課長からもお話がありました。昨年 12 月に町長選挙が行われ、お蔭さまで再選を果たすことができました。これも 4 年間の実績というものを住民の皆様にご評価いただいた結果であるのではないかと考えています。

マニフェストの達成率も外部評価委員会で 88.2%。そして、その他様々な分野で皆さんにとっては負担も多い 4 年間であったかもしれませんが、大きな成果を残していただきました。蒔いた種の芽が少しずつ確実に出始め、これらをしっかりご評価いただいたのではないかと考えています。

そして、出てきた芽を大きく成長させて花を咲かせる、それが私に課せられたこの 1 年間あるいは 4 年間の使命であり、責任であると考えています。ぜひとも、あらためて皆さんのお力をお借りしたいと考えています。

そして、新たな 4 年間のスタートするにあたって住民の皆様方には新しいマニフェストをご提示させていただきました。この作成にあたりましては、担当課長からも色々のご意見をいただきました。「三芳未来創造プラン 31」の宣言です。魅力あふれ、喜びいっぱい、幸せになれる町。三芳の未来を創造するプランで、31 の宣言から成り立っています。

すでに皆さんもご案内のように、今、日本は少子高齢化、そして東京などへの一極集中によって、日本創成会議によると 2040 年には全国の自治体の半分以上が消滅してしまう可能性があるといわれています。まさに各自治体に課された使命は、いかに魅力あるそして活力のある町をつくっていくか。そして定住人口を増やし、企業を誘致し、あるいは留置し、財政的な基盤をしっかりと確保し、持続可能な町をつくっていくことであると思います。

これに関しましては各自治体が今、必死になって取り組んでいます。この地域間競争に

三芳町も負けてはいけないと考えています。そして、そのための31の宣言を提唱させていただきました。マニフェストは住民の皆様との約束ですので、しっかりと達成していきたいと思っています。また、マニフェスト至上主義に陥らず、臨機応変に時代や社会の変化に応じて政策を打ち出し、それを行っていくことも必要だと考えています。

この4年間町政に携わって、良い町を作るには1つの方程式があると感じるようになりました。方程式は、3つの要素から成り立っています。

1つが良い政策

2つ目が対話

3つ目が人です

これらは足し算ではなくて掛け算。どれひとつゼロであってもすべてゼロになってしまいます。

良い政策というのは当然、地域間競争で勝ち抜いていくためには良い政策が必要です。そのために政策研究所を作らせていただきました。しかし、政策研究所の政策だけではなく、やはりそれぞれの担当部署で政策立案をしていただきたいと思いますし、職員研修の中からも今では素晴らしい提言をいただいています。ぜひとも皆さん自身が良い町をつくるための政策を提唱していただきたいと思います。

2つ目が対話。多くの人と対話を重ね、多くの人のご意見をお聞きし、そして合意を図っていく。これが何よりも大事だと思います。まちづくり懇話会や出前町長室等々、これからも続け、町民の皆様との対話を重視していきたいと考えています。新たな4年間を迎えるにあたって、あらためて職員の皆様との対話も重視していきたいと思います。何かありましたら、焼鳥屋でも結構です。どこでも良いのですが、色々な所で皆さんの本音をお聞きし、それをしっかりと町政運営に活かしていきたいと思います。

最後は人。町づくりは人づくり。住民の皆様が主役です。当然住民の皆様にも町づくりに参画していただきますが、職員の皆さん自身も主体者となって仕事を行っていただきたいと思います、高い情熱、そして高い志。自分の人生の中で仕事を何のためにしていくのか。そうしたことを考えながら、住民の皆様が幸せになれるよう、高い志を持って仕事に励んでいただきたいと思います。

私自身の今年1年間の抱負ですが、広報みよしの1月号にすでに書かせていただきました「潜龍元年」という言葉です。

初心に帰るという意味ですが、龍というのは恵みの雨を降らせる架空上の生き物です。最初から天を駆けめぐって飛べたわけではありません。小さい頃は「潜龍」といって暗い沼の奥深くの淵の中で、じっと長い間、辛抱に辛抱を重ね、辛い思いをしながら陽の目を見ることができなかった時代があります。この時、苦しいけれども「確乎不拔」の志を養うことができるといわれています。絶えずそこに帰ることが大事である。そういう思いで「潜龍元年」という言葉を使わせていただきました。

私は神主ですから、正月の三が日は神社で神明奉仕をさせていただいていました。その中で感じたことは、今年の抱負を「潜龍元年」とした前提には、自分はもしかしたら「飛龍」になっているという気持ちがどこかにあったのではないかと振り返ってみると、まだまだ自分は「潜龍」。深い沼の奥深くで、将来どうするかと考えている未熟な龍の幼い姿であり、そしてやっと池から出て飛ぶ練習をしているそんな状態なのかなということを感じました。そういった意味では、まだまだ自分自身は未熟であると思っています。

3万8千人の住民の皆様、3百人の職員のリーダーとして、どれだけ自分はふさわしいのか、まだまだ反省することもたくさんありますし、さらに精進していきたくとあらためて考えています。私一人だけでは良い町はできません。ぜひとも皆さんの力をいただきながら世界に誇れるような幸せな良い町をつくっていきたくと思いますので、皆様のお力添えをいただきたいと思います。

仕事をするからには楽しく明るく、皆さんも職場の中でこのような会話を交わし、コミュニケーションをとりながら仕事に励んでいただきたいと思いますので、どうぞよろしくお願いたします。

今年1年が皆さんにとりまして、そして三芳町にとりまして、素晴らしい年になりますことを心からご祈念、そしてお願いいたしまして年頭の挨拶にかえさせていただきます。